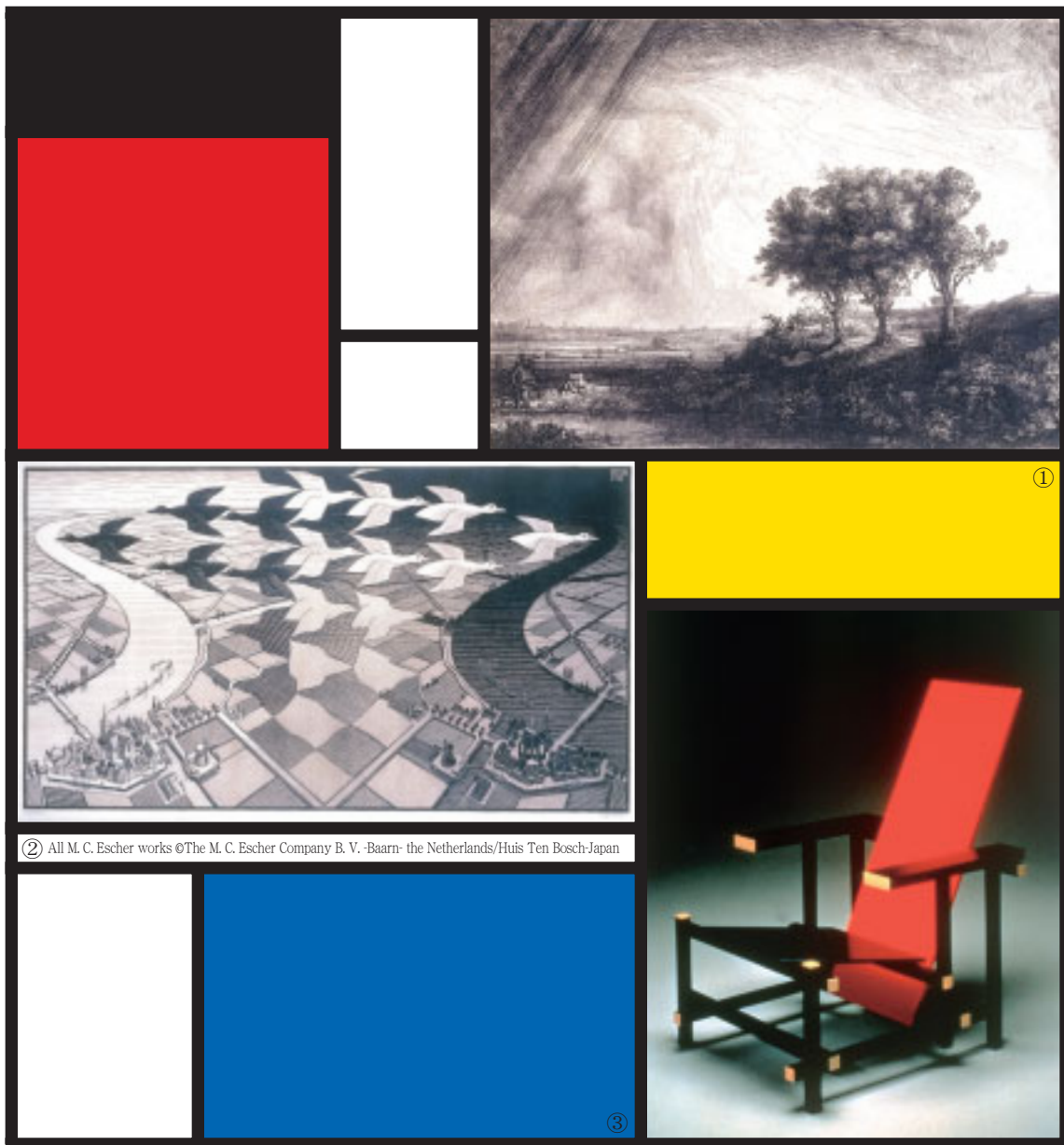


# 石川県七尾美術館だより

平成20年7月1日発行  
編集・発行 石川県七尾美術館

## 第54号(夏号)



② All M. C. Escher works ©The M. C. Escher Company B. V. -Baarn- the Netherlands/Huis Ten Bosch-Japan

日蘭修好通商条約150周年

### 「オランダの版画とモダンデザイン」

～レンブラントからエッシャー、モンドリアン、リートフェルト、ブルーナまで～

- ①「三本の木」 レンブラント・ファン・レイン 1643年 エッチング、ドライポイント 静岡県立美術館所蔵  
②「昼と夜」 マウリッツ・コルネリス・エッシャー 1938年 木版 ハウステンボス美術館所蔵  
③「赤と青の椅子」 ヘリット・トーマス・リートフェルト 1918年 木、ペンキ塗装、螺子

ISHIKAWA  
NANAO  
ART MUSEUM



# 展覧会紹介

平成20年7月4日(金) ~

9月15日(月・祝)

休館日については裏表紙をご覧ください

日蘭修好通商条約150周年

「オランダの版画とモダンデザイン」  
〜レンブラントからエッシャー、モンドリアン、  
リートフェルト、ブルーナまで〜

8月2日(土)〜9月15日(月・祝)

【会期中無休】

## ◆第一・第二・第三展示室

### ■プロローグ

ライン川下流の低湿地帯にあるオランダは、土地柄北海からの風も強く、人々は荒れ狂う水や風とうまく共存をはかりながら独特な文化を築き上げてきました。彼らは自然を誰よりも理解し、余分なものを削り取っていくという事を繰り返し、それは人々の中に自然や静物の美しさやその形を抽出していく意識を生み出させることになりました。その意識は風車や跳ね橋など、ゆたかな自然を利用した建築物から、身の回りに存在する家具や広告へも広がっていき、やがて限られた色とシンプルな線や幾何学形体によって構成された、オランダ特有のデザインを確立していくことになりました。プロローグでは、本展のテーマであるオランダ版画からモダンデザインへの流れと共に、オランダの芸術や文化の根底にある自然と風土について、パネルを中心に紹介します。

### ■オランダ版画の黄金期

17世紀、オランダ(当時はネーデルランド連邦

共和国)は黄金期と呼ばれ、海上貿易によって世界の中でも極めて裕福な国となっていました。人口も増え急速に発展していく文化の中、芸術面でも新しい表現方法を試み、複製や量産が可能な版画が着目されていきました。

版画は木版画や銅版画が主流でしたが、16世紀後半に金属を腐食させて線を描くエッチング技法がオランダで登場します。エッチングは、木版画と比べ繊細な描写や自由さが得られる技法であったため、多くの画家たちが多種多様な表現や技法を用いた作品を作り出していきました。

ヨーロッパ各国でも、版画は宗教画や大衆向けの出版物に利用されていましたが、オランダ版画では、まばゆいばかりの太陽の光や風、なびく木々やその世界の中で小さく佇む人々など、自然の風景が多く描かれました。彼らは、普段から自分たちの周りにあるなびない風景の中に美しさを見出し、白黒の版画の中に収めていったのです。

ここでは、油絵画家としても著名なレンブラントを始め、ロイスダールなどの版画を通して、オランダの人々の自然や風土への意識を感じながら、オランダ版画の黄金期に制作された作品を紹介いたします。



「小さな橋」 ヤーコブ・ファン・ロイスダール  
1651-55年頃 エッチング 町田市立国際版画美術館所蔵

### ■エッシャーに見るオランダ版画の近代

〜自然から独自の表現へ〜

17世紀に隆

盛した版画は、

その後リートグラフ(石版画)やメゾチント(金属凹版)など幅広い技法が生み出され、油彩画家が版画も併用して制作するというスタイルが主流になり、さらに、版画を専門とした版画家と呼ばれる作家も登場するようになります。その中でも、風景や動植物の形をそのまま描くのではなく、独自の表現で特異な世界を作りあげたのがオランダの版画家、マウリッツ・コルネリス・エッシャーです。



All M. C. Escher works The M. C. Escher Company B. V. -Baarn- the Netherlands/Huis Ten Bosch-Japan  
「婚姻の絆」マウリッツ・コルネリス・エッシャー  
1956年 リトグラフ いわき市立美術館所蔵

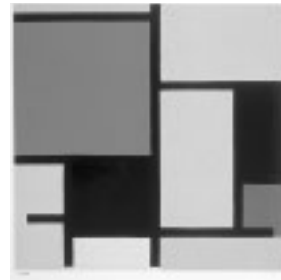
エッシャーの作品でまず思い浮かぶのは、「だまし絵」と称される不思議な構造を持った建物や図形の作品ですが、そのモチーフの多くが、風景や植物、動物といった自然のものから着想を得ており、オランダの豊かな自然の中に生きたエッシャーが、日常接する自然の造形物の中に無限の美を見いだし、やがて幾何学的表現へ落とし込んでいくまでの過程が窺えます。余分な線や表現を排除し、よりシンプルな構造と形を追求していく姿勢は、時に猛威を振るう自然と手を取り合い生きていくために、オランダの人々が生み出した生活の術にも色濃く反映されているといえるでしょう。

ここでは、オランダの版画表現が幾何学形状を得意とした特有のデザインへ移行していく流れを、エッシャーの作品を通して見ていきます。

## ■オランダモダンデザインの成り立ち

### ↳自然、建築、デザインをテーマに

オランダの抽象表現が、絵画として現れ始めた20世紀初期のことでした。ピエト・モンドリアンはキュビズムの追求を経て、更に余分なものを削ぎ落としたシンプルな抽象表現へととり着いた、抽象絵画の第一人者です。彼は極限まで単純化された自然物の絵画から、やがて赤、青、黄色の三原色をメインとした色調と黒い線だけで構成されたスタイルを確立し、ニューヨークでも注目されました。混ざり気のない赤、青、黄色の原色は、色彩を極限までシンプルに考えた先に到達した色であり、やがてこれらの原色がオランダのデザインへ取り込まれて行くことになるのです。



「コンポジション」ピエト・モンドリアン  
1921年 シルクスクリーン 神奈川県立近代美術館所蔵

ヘリット・トーマス・リートフェルトはモンドリアンの影響を大きく受け、モンドリアンの生み出した抽象表現を家具や建築などの立体造形物に反映させました。

そのリートフェルトの色彩を色濃く受け継いだのがディック・ブルーナであり、彼の絵本やポスターは芸術という枠に囚われず、幅広い世代にタッチ・デザインを認識させることになりました。ここでは20世紀のオランダ作家が生み出した色彩と形状の抽象表現がデザインとして発展していく流れを3作家の作品から学んでいきます。

## ■ブルーナに見るシンプルな色と形

現代のダッチ・デザインを確立させ、今日まで支えてきた作家の代表とされるのが、ディック・

ブルーナです。彼はモンドリアンやリートフェルトの色彩を受け継ぎながらも、エッシャーをはじめとした自然物の単純化を意識し、オランダの風土と共存するデザインを生み出してきました。その数々の作品は自国だけでなく、世界各国の人々に愛されるようになり、彼の作品を通じてオランダのモダンデザインを知る人も増えていきました。ここでは、ブルーナの絵本作品から彼の色と形の追求と表現を探っていきます。

## ■エピソード

### ↳ダッチデザインのみま

オランダのモダンデザインは、現在人々の生活の中に幅広く根付いています。明快な形とシンプルな色によって表現されたデザインは、オランダの街を見渡しても様々なところで見ることが出来ます。刺激的でユニークな広告や建造物を見る側を楽しませてくれます。

ここでは、デザイン性に富んだオランダの企業ポスターを紹介する他、オランダの街に溢れているモダンデザインをパネルによって紹介します。

### ◆ワークショップコーナー

作品を鑑賞した後、出品作家やオランダ文化に関連した自由参加のワークショップを体験し、オランダのデザインや作家たちを、より身近に感じてみよう。

### ★エッシャーパズルをつなげてみよう！

エッシャーの作品に出てくる動物形のパズルを組み合わせてみよう！  
う！どんどんつながるよ。



### ★窓にコンポジションを作ろう！

窓に貼り付けられる素材を使って、モンドリア

ンの絵のように窓を色とりどりにデザインしてみよう。

### ★リートフェルトの椅子にすわってみよう！

リートフェルトの代表作「赤と青の椅子（レッドアンドブルー）」に実際に座ることができるよ。

### ★レッドアンドブルーを組み立てよう！

「赤と青の椅子」のミニチュアキット（1/5サイズ）を使って、実際に組み立ててみよう！

### ★ブルーナの色を学ぶ「はりえ」

ブルーナの絵本作品は、ブルーナ・カラーと呼ばれる6色で描かれています。絵の内容に合わせて色を選んでいますが、背景の色を変えると、ミッフィーはどんな感じかな？色の差し替えが出来る貼り絵キットで、体験してみよう。

### ★ブルーナの色で楽しむ「ぬりえ」

小さいお子様向けに、ブルーナ・カラー6色等を使ったぬり絵も楽しめます。

### ★オランダの民族衣装を着て写真を撮ろう！

長崎ハウステンボス美術館所蔵のオランダ民族衣装を着てみよう。大人用と子ども用（小学校低学年用）があります。

今年は【日本オランダ年】です。オランダの企業ポスター等も資料展示します。今年の夏は、丸ごとオランダを楽しんでください！

## ◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	800円	700円	3000円
	3500円		

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

# 「池田コレクション名品展」

7月4日(金)～27日(日)

## ◆第一・第二展示室

本展は七尾市名誉市民の池田文夫氏（一九〇七～八七）が蒐集した美術品「池田コレクション」を紹介する展覧会です。

池田文夫氏は七尾市出身で、岐阜県大垣市を拠点に経済人として幅広く活躍しましたが、他方で美術品に対する愛着も一方ならず、様々な国内外の優れた作品を求めました。

氏は昭和六十二年に没しますが、その翌年にご遺族より七尾市に対して氏の蒐集美術品より茶道具を中心とした一二五点が寄附されました。

当時七尾市には美術品を保管・展示する施設がなかったことから、本寄附を契機に美術館を望む声が高まり、当七尾美術館が建設されました。いわば「池田コレクション」は、当館の「生みの親」といえるでしょう。

その後、当館が開館した平成七年より同十七年にかけて美術品の追加寄附があり、現在「池田コレクション」は計一七〇点となっています。

「池田コレクション」は、茶道美術品を中心とした日本美術のコレクションであり、池田文夫氏が拠点とした岐阜県及び出身地である石川県ゆかりの作品が多く含まれています。その内容は陶磁器や近現代日本画、浮世絵や彫刻などバラエティ豊かであり、本展では「池田コレクション」より様々な作品を計五十七点紹介予定です。

### 〈主な出品作品紹介〉

#### ①陶磁器「織部輪花南瓜文台鉢」

見込に描かれた大きなカボチャの葉が一際目立つ鉢で、豪快な筆使いによるカボチャの葉や花と、対照的に薄く繊細な形に成形された器が、見事に調和しています。



織部焼は桃山時代を全盛期として、現在の岐阜県美濃地方で制作されました。本作品に見られるように、形や色・文様などがとても奇抜でバラエティ豊かなのが特徴です。

#### ②浮世絵「納涼美人図」

宮川長春作

浮世絵といえば版画を連想しますが、肉筆の浮世絵も多く制作され、手描きならではの細やかな表現で一世を風靡しています。

本図は江戸時代中期頃に活躍し、肉筆浮世絵の名手といわれた宮川長春（二六八二～一七五二）の手になる肉筆浮世絵で、描かれた女性や着物などの細部にまで神経が行き届いたような表現はさすがです。



#### ③日本画「金魚図」

大橋翠石作

清らかな水の中を悠然と泳ぐ立派な風貌の金魚が大きく描かれています。うろこの輝き具合や柔らかなヒレの描写が丁寧で、夏に部屋に飾れば涼しい気分になれるそうです。



大橋翠石（一八六五～一九四五）は岐阜県大垣市出身の日本画家で、写実的な動物画を得意としました。

#### ④彫刻「木彫養老」

関野聖雲作

有名な岐阜県の昔話「養老の滝」をテーマにした作品です。場面はまさに話の山場である、木こりの息子が父のために泉から酒を汲んでいるところで、その嬉しそうな顔が何とも印象的です。



関野聖雲（一八八九～一九四七）は神奈川県出身で、神話や歴史物語をモチーフに木彫を用いて独特の作品を制作しました。

### ◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	2800円	3500円	2800円
	2800円	2800円	2200円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

## 能登畠山氏の今

今年、長谷川等伯の長男・久蔵の生誕四四〇年ということ、久蔵の代表作である国宝「桜図」（京都市・智積院蔵）を特別公開しました。

そして再来年の平成二十二年（二〇一〇）は、等伯が没して四〇〇年の節目の年であり、東京・京都で大々的な展覧会が予定されているのをはじめ、七尾でも様々なイベントが予定されそうです。さてもう一つ、等伯に関連したことで今年節目を迎えたのは「能登畠山家創立六〇〇年」です。等伯が能登で活躍していた頃、能登はまさに畠山氏の領国でした。そこで今回は能登畠山氏について触れてみたいと思います。

### 一、能登畠山氏とは？

能登畠山氏は室町時代中期より戦国時代末期まで能登国を支配した大名で、鎌倉時代からの名族畠山氏の支流にあたります。畠山本家は鎌倉時代初期の足利家当主義兼の子義純を祖としており、室町幕府を開いた足利氏の一門で、幕府内では常に要職にあつた家柄です。

畠山氏と能登との関わりは嘉慶三年（一三九八）頃、畠山基国が能登守護に就任したのが始まりとされます。その後応永十五年（一四〇八）に基国の子満慶が能登守護を継承し、ここに能登畠山氏が成立したといわれ、従って満慶がその初代当主に位置づけられています。

当時の守護大名は在京が基本であつたことから、実際に能登で統治を行ったのは三代目の義統からといわれます。その頃世は既に戦国時代となつており、能登でも幾度かの内乱などがありました。

畠山氏は着実にその危機を克服し、守護大名から戦国大名へと転身していきます。そして勢力を確固たるものとした能登畠山氏は、やがて七代目の義総の頃に全盛期を迎えることとなります。

### 二、能登畠山氏の黄金期と等伯

義総は三十年にわたつて国主の座にあり、その卓越した政治手腕によって能登に安定と繁栄をもたらしました。それによって七尾の城下町も飛躍的に発展し、北陸屈指の都市として大いに賑わつたといわれます。

一方で義総は文芸への関心が深く、古典研究の第一人者であつた三條西実隆に師事して『源氏物語』や『伊勢物語』などの研究に熱中しました。また、京都より多くの文化人を招いて歌会などを度々催しています。それはやがて家臣たちにも伝播し、多くの教養豊かな武士が活躍しました。

また、戦国時代頃より武士や有力な町人の間で法華宗が広まり、その中で七尾では京都からの流れである「京都法華」が信仰されました。やがてそれらは「七尾法華」を形成しますが、信仰の広がりには同時に京都の華やかな町衆文化も広めることとなりました。

その「能登畠山文化」が大輪の華を咲かせた、義総の治世下の天文八年（一五三九）、長谷川等伯は生まれました。従つて等伯が幼少期をすごした頃は、画家として成長していく上で最も良い環境であつたと思われ、いわば「長谷川等伯」の誕生には「能登畠山文化」が大きな役割を果たしたのではないのでしょうか。

### 三、能登畠山氏その後

繁栄を極めていた能登畠山氏でしたが、やがてその力にも翳りが見え始めます。天文十四年（一五四五）義総が没すると次男義統が家督を相続しますが、その頃より重臣たちの台頭・勢力争い

などが頻発します。国主の権威は失墜し、内乱が繰り返された挙句、上杉氏の侵攻も加わつて天正五年（一五七七）、上杉謙信によって七尾城は落城、ここに能登畠山氏は滅亡しました。

現在、能登畠山氏の足跡を伝える作品や資料はあまり多くはありません。しかし広大な規模を誇る七尾城址や、現存する様々な文献資料や出土資料などが、約一七〇年にわたつて権勢を誇つた能登畠山氏の栄華を今に伝えてくれます。

### 四、今年「能登畠山」年

さて、「能登畠山家創立六〇〇年」となる今年、様々な記念のイベントが予定されています。加賀前田氏に比べてどうしても知名度で劣る能登畠山氏であるだけに、今回はより多くの方々にも知ってもらふ絶好の機会になると思います。

なお、当館でも今年9月20日より10月26日までの会期で、企画展「能登畠山氏と能登の美術」を開催予定です。同展は七尾城史資料館で開催予定の企画展「能登畠山氏と文芸の世界展」にあわせて開催するもので、地元にも伝来する能登畠山氏関連の資料を中心に、長谷川等伯を含めた「長谷川派」作品を加えて、ゆかりの作品・資料を紹介する予定です。詳細な内容につきましては、後日改めてお知らせしますので楽しみに！



七尾城址（本丸跡）

七尾城は能登畠山氏が能登支配の拠点として築いた山城で、本丸からの絶景は上杉謙信をも感動させたといわれます。

## アートホール催し物案内

### Little Pianist Concert Vol.11

7月6日(日)

開演 午後1時30分

2年に一度の門下生によるピアノ発表会。上手に楽しく演奏できるかな?何を着ようかな?子どもたちはドキドキワクワク。小さなピアニストたちの晴れ舞台を、ぜひお楽しみください。

入場料 無料

主催 川部真紀門下生

連絡先 川部真紀

☎0767(57)1641

### 海を感じる

7月10日(木)

開演 午後7時30分

海の街七尾 国際港七尾の海 それに繋がるきれいなハワイの海の映像とパーカッション、アコースティックギターのオーガニックサウンドを聞きながら海を感じましょう。

入場料 無料

主催 社団法人七尾青年会議所

連絡先 ☎0767(53)2822(同右)

☎090468813270(野崎)



### 北嶺中学校フルバンド部

#### 第27回定期演奏会

7月20日(日)

開演 午後1時30分

サクソフォン6名、パーカッション1名、キーボード1名の合計8名による演奏です。今年度はOBや地域の方々のゲスト出演もあります。どうぞご来場ください。

入場料 無料

主催・連絡先 七尾市立北嶺中学校

☎0767(58)1213

### 佐藤有希子門下生ピアノ発表会

8月3日(日)

開演 午後1時30分

日頃の練習の成果を、ピアノソロ・ピアノ連弾で披露します。小さなピアニストたちが奏でる音を、どうぞお聴きください。

入場料 無料

主催 佐藤有希子門下生

連絡先 佐藤有希子

☎0767(54)0955

### 七尾市健老大学講座 音楽鑑賞

9月9日(火)

開演 午後1時30分

懐かしい唄をピアノ・フルート・詩吟で楽しんでいただきます。

入場料 400円

主催・連絡先 七尾市生涯学習課

☎0767(68)6595

### 第64回東海北陸ブロックPTA研究大会

#### 石川県七尾大会

9月26日(金)

開場 午前11時30分

テーマ「親育ちく能登から子育てルネサンス」  
七尾朝日中「親子で育つ学校支援共育をめざして」  
三重立田小「地域とともに学校を守り、子どもを育てる」  
1市6県のPTAが参加するPTA研究発表です。

入場料 無料(要参加証)

主催 社団法人日本PTA全国協議会・東海北陸ブロックPTA協議会・石川県PTA連合会

連絡先 七尾市PTA連合会内

東海北陸ブロックPTA研究大会

石川県・七尾大会開催実行委員会

☎0767(53)3661

### 市民ギャラリー「七尾日創展」

#### 第13回七尾日創展

7月10日(木)～13日(日)

但し、初日は午後1時から

最終日は午後4時まで

石川県内外から出品された日本画を中心とした絵画作品約60点を展示します。風景、花鳥、人物、具象から抽象まで、さまざまな個性あふれる作品をお楽しみください。

入場料 無料

主催 日創会(代表 丹羽俊夫)

連絡先 三宅厚史

☎0767(77)1368

## 第14回七尾美術作家協会展

7月19日(土)～21日(月・祝)  
最終日は午後4時まで

この協会展は、日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真の全会員が新作を出品し、広く市民、県内の皆様方に見ていただき、研鑽と高揚を目指します。

**入場料** 無料

**主催** 七尾美術作家協会

**連絡先** 同会会長 清水聖鵬

☎0767(52)3931

## 七尾能面展2008

7月24日(木)～27日(日)

但し、初日は午後1時から

最終日は午後4時まで

能面の美しさに魅せられた10人が、心を込めて制作した女面、男面、鬼神面等の能面約50面を展示します。能面の解説や能面を着ける体験コーナーもあり、能面を身近に鑑賞して下さい。

**入場料** 無料

**主催** 面匠会・能登面打同好会

**連絡先** 森多雪山

☎0767(22)1207

## 前号のお詫び

前回発行分「美術館だより第53号(春号)」4頁の作品画像に誤りがありました。「流水桜文蒔絵神代櫓」(松田権六作)の画像に、誤って不出品作品の「三保の富士蒔絵」(松田権六作)を掲載しました。ここに訂正して深くお詫び申し上げます。当該頁の正しい画像を掲載したものを作成しましたので、差し替え希望の方は当館受付までお申し出下さい。

※差し替え済みの「美術館だより」が届いた方もいらっしやいますので、ご確認下さい。

## 参加者大募集!

### 第9回 石川県七尾美術館友の会

## 「鑑賞の旅」のご案内

今年の「鑑賞の旅」は、秋にリニューアルオープンする石川県立美術館の展覧会『法隆寺の名宝と聖徳太子の文化財展』を鳴崎丞同館館長のご案内で鑑賞します。名宝「勢ぞろい」の展覧会を、そして素敵に生まれ変わった県立美術館を楽しんでませんか?午後からは、体験コース(長町友禅館で加賀友禅の染色体験)と散策コース(長町・武家屋敷などの散策)の二組に分かれて城下町金沢を満喫します。すてきなプレゼントが当たる抽選もありますのでお楽しみに♪



皆様からのお申込みを待ちしております。

◆日 程 10月5日(日)〔七尾市バス利用〕

◆見学予定地 (金沢方面)

◆参加費 石川県立美術館、長町友禅館など

◆体験コース コースによって異なります。

①体験コース 5,500円

②散策コース 3,500円

素敵なミニ染額(15cm四方)を作成。友禅作家気分を味わえます。

老舗記念館、武家屋敷「野村家」などを

見学・長町界限を散策します。

※いずれも体験料・見学科・昼食代込。友の会会員

以外の方は右記参加費に1,000円加算されます。

◆募集定員 先着25名(対象は原則として成人)

◆申込開始 7月10日(木)

◆申込方法 参加費をご持参のうえ、当館受付までお越し下さい。

## 長谷川等伯展

「久蔵の国宝「桜図」特別公開」を終えて

『楓図』、『松林図』に続き開館より三回目を数える「国宝」の展示となった本展覧会は、四月四日から五月六日まで(三十二日間)の会期中、一六、五五七人もの観覧者で賑わいました。

中でも七尾市内・中能登町の全小中学校児童及び高校生が本展を観覧、ほかにも奥能登の小学校がバス遠足で、県外の大学生はゼミで、と多くの方にご来館いただき、学生の観覧者総数は六、一四六人にものぼりました。

また、毎年恒例となっている小中学生対象「等伯なんでもクイズ」への参加者数は二、六八六人と最高記録を更新!展示室内では、学芸員の解説に耳をかたむけつつ真剣な眼差しで作品に見入る子どもたちの姿が印象的でした。引率の先生方はじめ、ご協力いただきました学校関係各位の皆様にご厚くお礼申し上げます。展覧会期が進むにつれ、一般個人の観覧者数も倍増、「何度見ても良い」と二度、三度とお越しいただいたお客様もおられ、「国宝」、「名品」の持つ『力』を感じずにはいられませんでした。



クイズに熱中する子どもたち

本展開催にあたり、所蔵者の方々に改めてお礼を申し上げますとともに、作品・展示室内の監視にあたってくださったボランティアの皆様にご心よりお礼申し上げます。



# これからの展覧会予定



◆第1・2・3展示室

## 「2008イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

平成20年11月7日（金）～12月7日（日）会期中無休

毎年ボローニャ市で開催される、絵本原画コンクールの入選作品が今年もやってきます。絵本のために制作された5枚組の原画は世界中から応募があり、今年は23カ国99名の個性豊かな作品が選ばれました。

また、特別展示は2007年ブラティスラヴァ世界絵本原画展グランプリを受賞した、アイナール・トゥルコウスキィ（ドイツ）です。

会期中には絵本づくりワークショップや絵本アニメ上映会なども行います。

「おかあさん」 インガ・ドロフェーヴァ（ドイツ） 「リンヒェンは、あるひ おさんぽにいきました」 より



## 「冬季・所蔵品展」

平成20年12月13日（土）～平成21年2月15日（日）

◆第1展示室

### 「(仮) 新収蔵作品を中心に」

現在当館では所蔵品・寄託品あわせて約560点の美術品を保管していますが、本展では主に昨年から本年にかけて新規に当館が保管することとなった所蔵品・寄託品など、新しく仲間入りした様々な作品を幅広いジャンルで紹介予定です。

「冬の道」 齊田 正一

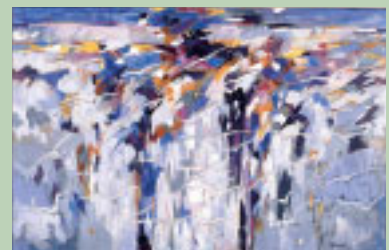


◆第2展示室

### 「(仮) 水と風がはこぶもの」

雨が降り、水が流れて大河をつくり、風が起こって雲が流れ、波がたつ。このように自然は絶え間なく変化しています。当館所蔵品及び寄託品の中から、その様子を捉え作品として表現されたものを絵画・彫刻・工芸作品でご覧いただきます。

「飛ぶカモメ」 ジャン・マキシム・ルランジェ（フランス）



割引、プレゼントなど特典いろいろ / ぜひ当館でもご利用ください。



飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分  
車……金沢から能登有料道路利用約1時間15分  
タクシー……JR七尾駅から約5分  
徒歩……JR七尾駅から約20分  
市内循環バス……JR七尾駅前5番乗り場から西回りに乗車約6分(まりん号)

## 休館日のお知らせ

(7月～9月)

- ◆7月 1～3、7、14、22、28～31
- ◆8月 1
- ◆9月 16～19、22、24、29

◎次号・第55号（秋号）は10月1日発行予定です。